

創立者出身地福井県鯖江市 ふるさと活動隊プログラム

テーマ 2016

「あなたしか知らない河和田のおもてなし創り」

鯖江市での現地調査（9月14日～18日）

プログラム1日目（市長面談、意見交換会）（9月14日）



鯖江市では、本年も当学生が本学創立者のひとり矢代操先生の出身地鯖江市でのふるさと活動隊派遣プログラムを「2016 鯖江ブランド創造プロジェクト」と位置付け、「あなたしか知らない河和田のおもてなし創り」を共通テーマに、4泊5日の現地調査を行うこととし、これまで事前研修等で学んできた内容をもとに、実際に現地を訪れての体験、様々な方へのインタビュー等を通じて河和田の魅力に触れ、河和田のくらし巡りを実践いたしました。

現地調査初日、牧野百男鯖江市長への表敬訪問（大学代表：竹本田持 社会連携機構長、矢ヶ崎淳子 社会連携機構副機構長）を行いました。牧野市長は、「鯖江市は全国に誇る先進事例が多く、市民が自分事として地域の活動に参加及び提言できる仕組みと風土が整っている。オープンデータソースの活用も積極的に推進しており、代表的な眼鏡産業、漆産業をはじめスマートグラスやメディカルウェアラブル製品に至るまで、注目度の高い市となっている。大学がない鯖江市であるが、多くの学生が様々な取組で集っており、学生の皆さんの提案をなるべく受入れ、具現化するようにしている。有効求人倍率も東京に次いで全国2位の土地で、仕事はあるが、課題もまだまだある。河和田という独自性を持った地域がさらに発展していくにはどうしたらよいか。学生の皆さんの自由な発想で、型にはまらないアイデアを出していただきたい。現地の人々に直に触れ合って感じていただきたい。後日の成果報告、提言を楽しみにしている。」と歓迎の挨拶があり、続いて鯖江ブランド大使任命式が挙行されました。



続いて矢代操先生胸像及び矢代家跡地を訪れ矢代先生の偉業を振り返るとともに、鯖江市役所地方創生戦略室主事今宮知宏氏から、今回のテーマに係る当日のミッションが発表されました。このミッションはテーマを実現させるべく、各日発表がありました。

主たるミッションは、河和田くらし巡りに向け、鯖江市で触れたこと、魅力について各種 SNS を活用し、各自が 50 投稿以上

発信していくことというもので、Facebook、Twitter、インスタグラムなど各メンバーがそれぞれ得意な分野を活かし、発信がスタートしました。



現地での体験活動として、めがね会館にて「めがねストラップづくり」に挑戦。先生のご指導を仰ぎ、各自



が個性あふれるストラップを完成させ、職人の業、めがねの魅力とその変遷についても学ぶ貴重な機会となりました。

その後、西山公園でのレッサーパンダの見学と動物の飼育に関する現状と課題を経て、河和田地区へ移動。3日間滞在するラポーゼかわだ



にて、牧野市長参加の下、山田 誠河和田町区長及び久保正樹片山町区長をはじめとする現地の皆様との懇談会を催し、意見交換会を実施しました。

プログラム2日目～3日目（現地調査：各地ヒアリング）（9月15日～16日）



2日目・3日目はチーム別（チームだんね：薄井健人・足立 諒・静 真穂、チームめがにゃん：吉田瑞穂・石川絢菜・高島洋和）に現地ヒアリングを開始。今宮氏にご用意いただいた自転車を使用し精力的に訪問。

●ヒアリング箇所事例：八幡神社・うるしの里会館での絵付け体験・駒本家・椀椀・Hacoa・ろくろ舎・敷山神社・河和田アートキャンプ・TSUGI・ataW・元木地屋さんのお宅・和紙の里・谷口眼鏡・cotoba 他

いよいよ「河和田くらしの祭典」本番に向け、若手移住定住者によるスピーチが行なわれた「河和田雑学塾」に参加し学んだ他、地域おこし協力隊として鯖江市に赴任し、中道アート構想の推進や河和田くらしの祭典においても河和田 中道アート「COTOBA 3Dプリンター& カフェ」を運営し、SNSを活用してイベントの周知向上と来場者の増加施策を担う木戸 健氏を訪問し、翌日からのふるさと活動隊のミッション及び自ら創意工夫して各自がこの祭典を盛り上げるためのチャレンジの可能性等について意見交換をし、アドバイスをいただきました。



cotoba にて



cotoba でのヒアリングを終えた後も、翌日からの「河和田くらしの祭典」での活動に向けて毎夜のグループワークを実施。自分たちがどうやったら最大限に貢献できるか、河和田のおもてなし創りというものを伝えられるか、ディスカッションを重ね、SNSでの発信戦略及び、片山町八幡神社でのキャンドルアート制作に向け準備を進め、今宮氏から最終ミッションの発表を受けました。

プログラム4日目～5日目（河和田くらしの祭典での活動）（9月17日～18日）



いよいよプログラムも大詰め4日目からは、河和田くらしの祭典がオープン。ふるさと活動隊メンバーは各案内所（河和田地区・片山地区）を担当し、おもてなし創りの実践、片山地区キャンドルアート制作に取り組みました。

ミッションである各 SNS 投稿による河和田くらしの祭典の周知向上及び来場者増加のため、生憎の悪天候にも見舞われる場面



もあったものの、精力的に来場者に声掛け及び特製写真フレームを用いての撮影並びに SNS 投稿を推進しました。

また、片山地区での漆絵付け体験の手伝いも並行して実施。子供たちをはじめ来場者がくつろげるよう BGM を用意する等受付周辺から工夫を凝らし、多くのお客様に絵付け体験を楽しんでいただくことができました。

続いて片山地区のメイン活動でもあるキャンドルアートの制作を開始。現場となる会場は、地元の人々が季節の折々に家族で集う伝統ある八幡神社でした。

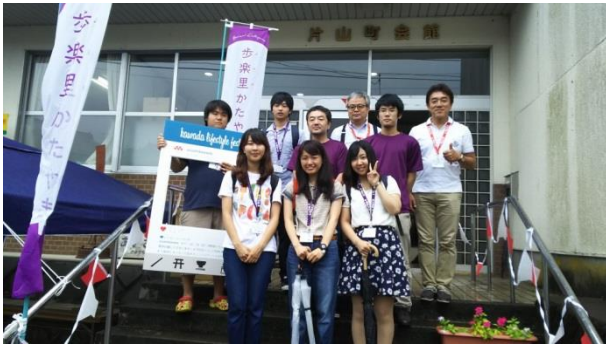


キャンドルアート制作図案は、河和田地域全体が鯛の形に見えることから、鯛をモチーフにして地元で愛される片山地区を表現。途中激しい雨に見舞われ、制作途中にキャンドルの炎がつかなくなったり、風雨で倒れたりしながらも、傘で作品を守りながらなんとか完成にこぎつけました。18時を回りいよいよキャンドルに火を灯す時間帯にな



ったところで再度雨足が強くなったものの、結果的に全てのキャンドルに火を灯すことに成功。あとは天候の回復と、来場者が果たして八幡神社山頂の境内まで登ってきてくれるのか、祈るばかりでしたが、周囲が暗くなるにつれ天候が回復。見事なキャンドルライトアップとなり、来場者が感嘆の声を上げていました。





河和田くらしの祭典本番 1 日目を振り返る宿舎（17 日は鯖江市内神明苑に宿泊）でのグループワークでは、最終日に向けて各メンバーが課題と改善策を出し合い、より密な情報共有と来場者への積極的な呼び掛けをすること、最終日は河和田くらしの祭典に参加している店舗に足を運んで自分の眼で見て体感すること、を共通事項とし、1 日目の反省点を 2 日目にすぐに活かすべく臨むこととしました。

最終日となる 9 月 18 日も、1 日目に続き河和田くらしの祭典案内所（河和田地区・片山地区）を担当し、ミッションに取り組むとともに各店舗の催しに積極的に参加。お祭りの最終日を盛り上げました。夕方帰京の電車ギリギリまで活動を継続し、活動終了後には、ふるさと活動隊メンバー全員で引率の鳥居 高社会連携機構地域連携推進センター長及び岩崎宏政社会連携事務長とともに、山田 誠河和田町区長及び久保 正樹片山町区長に連日のふるさと活動隊の活動への尽力に御礼の挨拶をし、最後に cotoba の木戸 健氏を訪問し、SNS 投稿についての報告及び御礼の挨拶をしました。最終日も降りしきる雨の中やり切った晴れ晴れとした表情のふるさと活動隊でした。



活動を終えてふるさと活動隊各メンバーは、「鯖江が好きになった。来年河和田くらしの祭典に帰ってきます！感謝の気持ちでいっぱいです！」と自ら鯖江に帰ってくることを宣言。まさに**第二のふるさととして活動する鯖江ブランド大使**として、**大学内外でふるさと活動隊として鯖江市の魅力発信していく決意を新たに**していました。

牧野市長はじめ齊藤地方創生戦略室室長並びに鯖江市職員の皆様、明大生につきっきりで親身に対応してくださった今宮さん、取材・体験等活動に快く応じてくださった皆様、温かい御支援と御協力、誠にありがとうございました！

ふるさと活動隊各 SNS 投稿記録（抜粋）

